

2021年6月3日

## 第33回 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力NW小委に関する意見

小野透

第33回再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会における議題に関して、以下の通り意見を提出いたします。

### 資料1 FIT非化石証書のトラッキングについて

FIT非化石証書のトラッキングにかかる対応について、事務局に整理いただいた内容に違和感はない。その上で、本日の論点とは少し離れるが、特に「再エネ価値取引市場」に関連して、今後の検討にあたってご留意いただきたい点についてコメントする。

FIT非化石証書を取引する「再エネ価値取引市場」は、環境ブランディングを求める需要家の非化石価値へのアクセスを拡大する上で有効である一方、非化石電源投資拡大等につながる直接的な追加性はないものと承知している。また、2050年カーボンニュートラルの実現には企業によるイノベーションの追求や実際の再エネ等への投資が不可欠だが、価格の設定次第では、「研究開発/設備投資より証書購入」といったモラルハザードを誘発する恐れもある。例えば電炉鋼材の場合、1トンあたり約700kWhの電力を消費するが、もし再エネ価値が1円/kWhであるなら700円で再エネ100%カーボンフリーの鋼材が作れてしまう。仮に鋼材単価がトン当たり10万円とすれば、わずか0.7%のコストであり、多大な開発投資や新技術導入投資を回避するには極めて割安なコストと言える。FIT導入によりすでに多大な国民負担が発生している中、既存の非化石価値取引市場や今回提案されている新市場の制度目的・効果を踏まえ、こうした懸念も念頭に、丁寧な検討をお願いしたい。

最後に、こうした取り組みの前提として、引き続き再エネの低コスト化を通じた主力電源化にもしっかりと取り組み、供給側の環境整備を行うことが不可欠であることを改めて申し添えたい。

### 資料2 電力ネットワークの次世代化に向けた中間とりまとめ

#### 4. 基幹送電線利用ルールの見直し (P23~39)

今回、基幹送電線の利用ルールを、従来の先着優先から混雑を前提としメリットオーダーに基づき管理を行っていく手法へと転換する旨、整理された。これまでの議論を丁寧にまとめた内容であり、支持する。

本小委や関連会合等で繰り返し申し上げてきたとおり、電力需要家、とりわけ国際競争にさらされている産業界の大口需要家としては、今回の見直しが、電気料金の上昇に繋がることのないようご留意いただきたい。メリットオーダーに基づく運用により実現する社会コスト低減という便益が、コストを支払う電力需要家にも適切に還元されるよう、引き続きの詳細検討をお願いしたい。

以 上